

農地法による許可申請受付メ切は毎月10日です

第45号

昭和53年創刊号から通算第130号

農政

# ちちぶ

令和5年1月1日発行  
秩父市農業委員会  
秩父市熊木町8番15号  
電話 0494 (25) 5231  
責任者 糸 東 男



令和4年度 第17回 農業に関する図画・作文コンクール  
図画の部 最優秀賞 高篠小学校4年 黒澤 真翔さん  
「おばあちゃんのきゅうり大好き！」

## 主な内容

- 農業委員長挨拶 ..... 2
- 令和4年度 第17回 農業に関する図画・作文コンクール ... 3～6
- 農業委員会・農政課からのお知らせ ..... 6
- 朝の光、耕地の話題 ..... 7
- 農を詠む、知々夫の夜ばなし、編集後記 ..... 8

# 年頭にあたり



秩父市農業委員会

会長 糸 東男



新春のお慶びを申し上げますとともに、謹んで皆様のご健勝ご多幸を心より祈念申し上げます。

令和五年の新しい年は、新型コロナウイルスの感染症が終息してコロナ以前の『日常生活』が営まれる事を願い、熱望して居りましたが、残念ながら今暫くの我慢が必要のようです。

今年、秩父市農業委員会では7月19日に、農業委員13名と農地利用最適化推進員の14名が任期満了となり改選となります。

農業委員会の新たな役割として分散圃場の状況にある農地を使いやすくまとめるため、あらかじめ将来の農地利用の姿を描き、計画的に集積・集約化を進める。市町村は協議の場を設けて話し合いを行い、地域計画を策定し、農業委員会は関係機関の

協力を得ながら農業者の意向を踏まえ、目標地図の素案を作成する。

地域は、その達成に向けて農業委員会が農地の所有者などに農地バンクへの貸し付けを積極的に働きかけ、都道府県は農業を担う者の確保・育成に関する方針を策定し、農業経営・就農支援を行う体制を整備するほか、認定農業者の事業展開を支援する。

農地法における農地取得時の下限面積要件は、農地を利用しやすくするため廃止されます。

昨年、気候変動と国内農作物との関連を尋ねた調査があり、全国で70品目超の農作物が温暖化で悪影響があると、東京都以外の四十六道府県から回答が寄せられ、主力作物の代表である米については四十三道府県

が影響を受けているとの回答があり、高温による品質低下や収量減などに直面しながら、被害抑制に懸命な各地のさまざまな対策や工夫が報告されました。

抜本的な対策として二十以上の府県が、暑さに強い新しい品種「高温耐性品種」の育成や普及に言及しており、多くの地域でオリジナル品種の育成に努めています。

農業は気候変動の影響が表れやすい分野で、農地法変更や品種改良など短中期的な対応だけではなく、長期的な適応策として作物の転換を始めた地域もあり、今後さらに増える予想との事です。

昨年の6月2、3日に埼玉県の北部と東部に降ったひょうによる農作物被害があり、被害の総額が過去最大の38億5千万円に上ったとの発表があり、県条例に基づく特別災害として、約9億円の支援策が実施されました。

農業関連での資材が値上げ、中でも肥料は尋常でない、JA全農が去年の六月十月に地方組織に売る肥料は最大94%値上げされた。

JA全農によれば、国際市況の肥料高騰に円安が重なり、ここ数年世界の人口増に伴う食糧増産で値上が

り傾向で、中国の輸出制限やウクライナ侵攻の経済制裁でロシアなどからの供給停滞で急騰したが、肥料の多くを輸入して使う日本の農家は大打撃である。

県農業会議では、昨年の九月に令和5年度・県農地等利用最適化の推進施策に関する意見書を埼玉県知事に提出しました。

- ① 農業委員会組織の活動強化支援
  - ② 農地の有効利用のための支援
  - ③ 農業を担う経営体の確保と支援
  - ④ 地域農業の活性化のための支援
- の四つの分野にわたる35項目。

農業委員会の事務局体制の強化、制度改正に対応した適正な法運用のための支援、経営改善への支援体制の強化のほか、米価下落対策、肥料高騰などの外的要因による農業経営への影響緩和策などとなっております。

大野知事は「農業現場の課題については、認識を共有している。意見書に基づき、引き続き施策の展開や国への要望などをしていく」とのお話を頂きました。

本年も、秩父市農業委員会に対しまして皆様のご支援ご協力を賜ります様お願い申し上げます。

## 図画の部 入賞者名

(敬称略)

【応募総数 44 点・入賞作品 10 点】

賞 別	学 年	学 校 名	氏 名	題 名
最優秀賞	4 年	高篠小学校	黒澤 真翔	おばあちゃんのきゅうり大好き！
優秀賞	1 年	大田小学校	堀口 誠	おじいちゃんとおばあちゃんのはたけ
優秀賞	2 年	荒川西小学校	町田 駿斗	ジャガイモ掘り体験学習
優良賞	1 年	花の木学校	久下 結叶	おじいちゃんとじゃがいもほり
優良賞	1 年	原谷小学校	彦久保七春	わたしとうぎょう
優良賞	2 年	高篠小学校	関河 大雅	じゃがいもとったどう！
優良賞	3 年	荒川西小学校	坂本 莉音	わたしと父がそだてたやさいたち
優良賞	4 年	吉田小学校	彦久保 新	いいちゃんの畑でとれたスイートタックル
優良賞	5 年	花の木小学校	田端 陸	どろまみれのいねかり
優良賞	5 年	原谷小学校	内田 結菜	ぶどうの粒抜きをする祖父

## 作文の部 入賞者名

(敬称略)

【応募総数 14 点・入賞作品 10 点】

賞 別	学 年	学 校 名	氏 名	題 名
最優秀賞	3 年	大田小学校	木本 大貴	育てた野さいはおいしい
優秀賞	1 年	原谷小学校	栗原 董	ちちぶのおいしいやさい
優秀賞	5 年	大田小学校	木本 葵彩	私も力になれた
優良賞	2 年	南小学校	秋元 翔	自分でそだてたやさい
優良賞	3 年	原谷小学校	彦久保朝光	おじいちゃんたちはすごい
優良賞	4 年	秩父第一小学校	飯塚 唯	おばあちゃん笑顔
優良賞	5 年	花の木小学校	田端 陸	八十八日のお米作り
優良賞	6 年	花の木小学校	山口 花歩	稲を育ててみて
優良賞	6 年	花の木小学校	山口 和花	我が家の野菜作り
優良賞	6 年	大田小学校	長澤くるみ	私とおじいちゃんの一時



入賞された皆様、誠におめでとうございます。次回も多くの出品をお待ちしております。

躍されることを大いに期待しております。

これから大勢のこども達が農業に関心を持ち、将来の担い手として活躍されることを大いに期待しております。

今年度は、全体の出品点数が58点（昨年は57点）でした。図画、作文ともに中身の濃い素晴らしい作品ばかりでした。自らの農業体験や、祖父母の手伝いをテーマに、種蒔きや収穫作業などが見受けられ、家族の微笑ましい様子が伺われました。農業を続ける祖父母を尊敬することも達の笑顔も目に浮かびます。

令和四年度農業に関する図画、作文コンクールを実施することができました。

秩父市農業委員会  
振興部会部会長 彦久保 利平

コンクール講評

# 第17回 農業に関する 図画・作文コンクール 審査結果

※入賞作品数  
最優秀賞 1点  
優秀賞 2点  
優良賞 7点

※優秀賞・優良賞の中の並び順は、学年順としました。





「育てた野さいはおいし〜い」

大田小学校 三年 木本 大貴

学校のそう合の時間に、みんなで育てたい野さいを考えて育てることになりました。トマト、きゅうり、オクラ、大こんの中で自分のすきな野さいをえらんで育てました。ぼくは大こんのみそ汁がのみたかったので、大こんを育てることにしました。

大こんのタネは小さい丸い形をしていて、青色で少し光っていました。タネをまいてから、かれないように、毎日みんなで水やりをしました。ぼくも休み時間や下校前に、早く大きくなつてねと思いつつ水やりをしました。

そう合の時間に、虫がこないようにするためにひつようなことや、かれないように育てるにはどうしたらいいのか：など、たくさん調べて『おいしく育てる大こん新聞』を作つて、『おいしくうさかん』の時に発表しました。お母さんに、

「上手にまとめられたね。絵もかいてあつてわかりやすかつたよ。がんばつたね。」

と言つてもらえてうれしかつたです。ほかにも色々な大こんりょうり調べて

『大こんおいしい新聞』も作りました。調べてみると、たくさんの大こんりょうりがあつて楽しかつたです。きゅうりと大こんの和風サラダがおいしそつたので、今どお母さんと作つてみたいなと思ひました。

しゅうかくできた野さいのじゅん番は、きゅうり、トマト、オクラ、大こんでした。きゅうりとトマトとオクラは、たくさんしゅうかくできたので、ぼくも学校でみんな育てたものを分けてもらひました。家に持つて帰つて、きゅうりはしおをつけて食べました。ぼくは、この食べ方が一番すきです。トマトは、ひやし中かの具にしました。赤色で、あまくておいしかつたです。

オクラは、えのきと豆ふと油あげのみそ汁に入れて食べました。ネバネバがおいしかつたです。オクラは切ると星の形をしていて、かわいかつたです。ぼくが育てていた大こんは、夏休み後の後のプールの日にぬきました。力を入れて葉っぱを引つぱつたら、スポンと三十センチくらいの細長い大こんがぬけました。ちゃんと育つて長くなつていて、うれしかつたです。お母さんに、

「ぼくが育てた大こんをぬいてきたよー。」  
と見せたら、  
「すごい。おいしそつな大こんだね。大ちゃん水やりががんばつていたもんね。」

と言つてくれました。そして、お母さんとといつしよに、大こんのみそ汁を作

りました。ぼくが大こんを四つに切つて、ピーラーでかわをむいて、千切りにしました。油あげも千切りにして、豆ふは小さいサイコロみたいに切りました。味見もぼくがしました。とてもおいしくできました。

「このみそ汁の大こんは、ぼくが育てたんだよ。」  
と家族に言つたら、  
「すごいね。おいしい。おかわりしたいな。」  
とみんなが言つてくれてうれしかつたです。大こんのみそ汁は、すぐに売切れてしまいました。タネから植えて、学校で育てた大こんは、とてもおいしかつたです。

ぼくは毎年、家の畑でも野さいを育てています。今年は、家族みんなが大好きなえだ豆のタネをまきました。大きく育つて、実も少しづつくらんできて、もうすぐしゅうかくできそつです。みんなでしおゆでしたえだ豆を食べるのが今から楽しみです。畑で野さいを育てることは、とても楽しいです。来年は、大きくてあまいスイカを育ててみたいです。



「ちちぶのおいし〜いやさい」

原谷小学校 一年 栗原 董

なつやすみがはじまつてすぐのちちぶ、おとうさん、いもうと、そし

てわたしの三人で、しんせきのおじさんのはたけへやさいをとりいきました。

わたしは、なんかいかおじさんのはたけでしゅうかくのおてつだいをしたことがあります。いつも、おいしいやさいができるよ、

「すみれちゃん、とりにくるかいい？」  
とこえをかけてくれるからです。

はたけにつくと、ひとつとししたのいもうとと、どちらがたくさんとれるかきょうそつです。このひは、トマト・きゅうり・なす・かぼちゃ・スイカをハサミでしゅうかくしました。

トマトをとるときは、ひだりてであかいみのぶぶんを下からそお一つとおさえながら、みぎてでチョキン！ときります。わたしは、なかのたねがかおにとんできたらどうしよう、とすこしドキドキしながらきりました。

いまはたけにあるやさいは、五月のはじめごろなえをうえて、六月から八月にしゅうかくできるよ、ひりょうをとちゅう一かいまくこと、まいにちゆうがたにかならずおみずをあげてい

ることを、おじさんにおしえてもらひました。

たくさんしゅうかくしたやさいを、おかあさんがおりょうりしてくれました。ミニトマトときゅうりは、きれいにあらつてそのままサラダでたべました。あまいトマトにびつくり！きゅうりもパリパリしててすごおもしろ

かつたです。かぼちゃははじめてみまわがしろいかぼちゃははじめてみま

た。なすはおみそするにいられてたべました。かえるときおじさんがくれたじゃがいもは、ポテトサラダでたべました。おいしくてなんどもおかわりしました。

いちばんびつくりしたのは、デザートのスイカをきつたらなかがぎいろうかつたことです。

「スイカはあかかな？きいろかな？どっちだったかおしえてね。」

と、おじさんがニコニコしながらいつていたのを思い出しました。わたしは、あかいのしかたべたことがなかったので、どんなあじがするのかきになりました。たねがたくさんあつてだすのがたいへんだったけど、あかいのにまけないくらいおいしくて、一さいのおとうとも、くちのまわりをびしやびしやにしながらいっぱいいたべていました。

スーパードカウやさいもおいしいけど、はたけでじぶんでとつたやさいはもつともっとおいしくかんじました。これからも、ちちぶのおいしいやさいをたくさんたべたいです。またのうぎようたいけんをしたいです。



「私も力になれた」

大田小学校 五年 木本 葵彩

五月二十八日、じいちゃんの田んぼで、田植えのお手伝いをしました。小

柱の田んぼは、去年の十月から六カ月間、大規模な配水工事をしていました。その工事が終わって、今年はずぐに田植えをしたので、工事をした場所がやわらかくて、機械ではふんごんでしまつて田植えができない所がたくさんあつたので、家族みんなで田植えのお手伝いをしました。

私は、生まれて初めて田植えをしました。田んぼの中は冷たくて、グニョグニョしていました。機械で植えられない所は、私の太ももくらいまでふんごんでしまう位深くてびつくりしました。土をほりおこした後の田んぼの中は、想像以上にすごかつたです。初めは田んぼの中のグニョグニョが気持ち悪かつたけど、だんだんと気持ちよくなつてきて好きになりました。じいちゃん、苗の植え方のアドバイスをしてくれました。機械で植えた列に合わせて、苗を三々四本とつて、土の中におしこむように植えていきました。初めはゆつくりだつたけれど、だんだんと田んぼの中を歩くのも上手になつて、苗を植えるのも早くできるよになりました。

「あおちゃん、上手に植えられてる！ありがとね。みんなに手伝ってもらえて、早く田植えが終わって、本当に助かつたよ。」

と、じいちゃんとおばあちゃんに言つてもらえて、すごく嬉しかつたです。いつもは、じいちゃんとおばあちゃんが機械で田植えをしてくれているけれど、今年は私も手伝うことができ、嬉し

かつたです。

田植えが終わつて、田植えの機械を洗つたり苗を育てていた箱を洗うお手伝いもしました。じいちゃんに、「あおちゃんは、細かい所まで洗つてくれるからキレイになるよ。ありがとね。」

と言われて、とても嬉しかつたです。今年は、田植えのお手伝いをしたので、苗が成長していく様子を観察するのが楽しみでした。苗も大きくなつて、今は緑色の穂が出てきています。秋にはおいしいお米が食べられると思うと、今からワクワクしています。

田植えのコツも分かつたし、楽しかつたので、また来年もお手伝いしたいです。じいちゃんとおばあちゃんが喜んでくれたのも、とても嬉しかつたです。じいちゃんとおばあちゃんがやっている田んぼや畑の仕事を私も少しずつ一緒にやつて、おいしいお米や野菜を作る手助けをしたいです。



「おじちゃんとおばあちゃんのはたけ」

大田小学校 1年 堀口 誠





「ジャガイモ掘り体験学習」  
荒川西小学校 2年 町田 駿斗



農地利用意向調査に

ご協力ください！

令和4年度農地利用状況調査の結果を踏まえ、今年度におきましても、新たに遊休農地化していると判断された土地の所有者に対して、農地利用意向調査を実施します。通知の届いた方につきましては、「自ら耕作している」、「貸したい意向がある」等の選択肢の中から、現時点での農地の利用意向について最も近いものをご回答ください。

なお、本調査は貸付け希望の農地の把握や非農地判断の参考等、農地の利用の最適化の推進を目的に農業委員会が実施するものであり、課税調査等とは関係がありませんので、あらかじめご承知おきください。

問い合わせ

- 農業委員会事務局  
☎ (25) 5231
- 吉田総合支所地域振興課  
☎ (72) 6083
- 大滝総合支所地域振興課  
☎ (55) 0862
- 荒川総合支所地域振興課  
☎ (54) 2114

農業委員会委員の改選及び農地利用最適化推進員の委嘱について

秩父市農業委員会の農業委員、農地利用最適化推進委員の任期が、それぞれ令和5年7月19日で任期満了となります。

秩父市の定数は、農業委員13名、農地利用最適化推進員14名、計27名となります。

国の第5次男女共同参画基本計画において、男女共同参画社会を実現するため、令和7年度までに農業委員に占める女性の割合を30%にする目標が定められました。

農業委員の活動が、性別や年齢に関わらず、地域農業の将来を見据えた取り組みとなるように、多様な人材が求められています。そのため、秩父市農業委員会では、農業や地域活動に熱心に取り組む女性の力も必要と考え、農業委員における女性の登用促進をおこなっています。

現在、秩父市農業委員会では、13名中1名の女性が農業委員として登用されていますが、目標としては、定数の30%に当たる4名以上の登用を目指しています。

併せて、秩父市の農業委員会では、

農地利用最適化推進員における女性の登用促進も行っています。

つきましては、農業委員（市議会）の同意を要件とする市長の任命制）および農地利用最適化推進委員（農業委員会が委嘱）の募集を行いますので、お知らせします。

農業委員：農業委員会の会議に出席し、農地法や他の法令に基づく農地の転用・権利移動に係る許可等に関して、審議及び判断を行います。

農地利用最適化推進委員：現場活動を主に、担当する区域において、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進を行います。

問い合わせ

- 農政課  
☎ (25) 5210
- 農業委員会事務局  
☎ (25) 5231



# 朝の光

農業委員 笠原 倍吉（荒川）

荒川地区はそば栽培による遊休農地解消と農村景観の改善対策について紹介したいと思います。

当地区は養蚕が盛んな地区で、昭和四十五年をピークに衰退し、遊休桑園による景観、有害鳥獣被害が多くその対策が求められていた。

そこで、遊休桑園をそば畑に転換する「そばの里づくり」に行政あがりの支援を得て平成十三年に荒川そば生産組合が発足し桑園の抜根作業、整地作業を行い、最初の工事として七ヘクタールのそば栽培圃場ができ、年間春秋そばの栽培が始まる。この時畑の筆数が多い中、土地の集積及び機械の作業効率を計るため、畑の境界をなくし座標管理による新しい方法を取り入れた。

同時にそば生産に関する機械一式、当時の荒川村にて全てを調達してもらい、機械化導入により大幅な時間短縮、作付面積拡大体制が整い年々と受託依頼が増加していく。そば道場あらかわ亭の開業、商工会を主体にした「ちちぶ荒川新そばま

つり」も毎年開催され県内外からのお客様も訪れ、都市との交流も進められた。

又、女性を中心としたそば製品も多数開発されていった。よって、しだれ桜とそばの里合い言葉に県有数のそばの生産地となり、平成十七年農林水産祭むらづくり部門（遊休農地改良）で関東甲信越代表として優秀賞の受賞を受けての励みで荒川そば生産組合の意識がさらに高まる。

その後年々開墾作業も進み二十ヘクタールの面積に増加していく中、この事業を長く継続していく為に行政機関の援助、金融機関から融資を受けやすい目的で法人化を進める中、県振興センターから中間管理事業も同時に提案され九十名を超える組合員の承認を得て平成二十九年五月に「農事組合法人ちちぶあらかわ」が設立され現在役員十名にて二十二ヘクタールのそば栽培管理運営に当たっている。

現状の問題点として早急な有害鳥獣対策が急務さらに後継者の確保、育成が課題となっている。

今後特に中山間地農地当地区は、田畑の筆数が多く集約実現は難しい状況にあるが農地プラン計画を基本とし農地パトロールを実施していく

中で隣接する地主さんと綿密な話し合いを進め遊休農地対策として中間管理事業参入を進められればと思います。



## 耕地の話題

### 「定年帰農と地方移住」

農地利用最適化推進委員

吉川 稔（柳田町）

私が農地最適化推進員として担当している地区は、秩父市の中でも大

変宅地化が進んでいる場所です。以前、このあたりは、田畑が多く、畑のほとんどが桑畑でした。そんな中、近年農業の魅力が見直され定年後、本格的に農業を始める「定年帰農」が人気を集めているが、漠然と希望するだけでは、農業が甘くないことは、だれしも承知している。

また、「地方移住」が話題になっている。移住と農業をセットにして、魅力のある農業を始めようとするのが今の姿。しかし、新規の就農者のかなりの割合が、離農する現実も見がせないことだ。

日本の未来の農業を託す担い手を安定的に定着させるには、各方面からの支援と理解が、断然必要である。秩父市においては、高齢化が進みます進む中で、人生百年時代を迎え、安定した農業を継続的に続けたいものである。

最後になりますが、遊休農地の発生防止、荒廃農地ができないよう農業委員さんと協力してやっていきたいと思います。





関口 良子(註)

(上野町) 関口 良子  
空稲架となり武甲嶺のあからさま

(熊木町) 前原元一郎  
捨て案山子まだ働ける面構え

(高篠) 村田 軍司  
学習田稲刈る子達の泥塗れ

(高篠) 武藤 圭子  
井然と稲を束ねて学習田

(荒川) 逸見 壽江  
草長けて草に埋もる種瓢

(上野町) 小林 敏子  
刻を告ぐチャイムは「夕やけ」蕎麦を刈る

(東町) 石澤 藍子  
蕎麦を干す手押車の上にまで

(中宮地) 浅見 昭文  
朝取りの秋茄子ならべ道の駅

(上町) 石川 弘美  
ずっとしりと武甲山背に掛大根

(蒔田) 島田 敦子  
武甲山の日纏ひてにほふ稲架襖



武蔵国

はるか昔、倭国は百三十五の国に分かれ、其の一つに知々夫国があったと云う。一説には、知々夫国の領域は現在の秩父郡・大里郡・児玉郡辺りまで及んでいたと云う。後に、知々夫・无邪志・胸刺の三国が統合され、武蔵国が成立したと伝えられる。

### 上武国境争論

江戸時代初めは、国境が曖昧であつたため、諸国で国境論争が頻発した。有名なのが元禄年間の「上武国境争論」である。

発端は、元禄十一年に幕府が諸国の国絵図改めを行った際に、神流川下流より秩父郡太田部村までは、国境が川切りであるので、上流の上野国甘楽郡山中領(群馬県多野郡神流町・上野村)と武蔵国秩父郡との境も川切りであろうと推測し、山中領に示したことによる。

この争論は、元禄十二年五月に始まり、同十五年閏八月に終了している。

甘楽郡山中領の村々は「峰切り」

を、秩父郡の村々(河原沢村・日尾村・藤倉村・上吉田村・中津川村)は「川切り」を、夫々歴史的な経過を基に申し立てた。

幕府は、国境画定のために役人を万場村に派遣して、実地検分をさせたところ、検使の役人からは「国境は峰切りが適当である」という報告が上がった。

元禄十五年、双方の村々の代表が幕府の評定所に罷り出ることを命じられ、評議が行われた。評議の結果、「国境は峰切りとする」という裁定が下され、足掛け四年に亘る争論は決着した。

「峰切り」とは、三国山・志賀坂峠・矢久峠・土坂峠・塚山の尾根伝いを境とすることであり、現在の群馬・埼玉の県境を指す。

この争論の文書は、群馬県には数多く残されているが、秩父側には殆ど残されていない。

僅かに、『増補秩父風土記』(塩沢坂本家版)の日尾村の条に

秩父郡山中領の境目出入、貞享年中、当村、重左衛門秩父惣代に出候所、重左衛門負候て、神流川の川中境の所、山の峰とられ負候

とあるのみである。年号も誤っており、文書の出所も不明であるが、当時の様子は伺い知れる

### 編集後記

新田 恭一

農政ちちぶ45号の発行にあたり、多くの執筆者の皆様にご協力を賜わり誠に有りがとうございました。

又本号では農業委員会が主催しました小学生の「農業に関する図画、作文コンクール」の作品を紹介しております。小学生の視点での作品それぞれ秀作ぞろいです。

本年度も農業委員会では、9月から11月に委員全員にて農地利用状況調査が市内すべての農地を対象に行われました。

増加傾向にある遊休農地、引き続き解消に向けて取り組んでまいりますので、宜しくお願い致します。

### 秩父市農業委員会広報部会

- 部長 新田 恭一
- 副部長 小久保健司
- 委員 青野 孝司
- 委員 齊藤 稔
- 委員 木村 初枝

